



# 取扱説明書



品名 : レールスクーター (軌道自動自転車)  
型式 : RC-RZ2/RZ4/RS2/RS4

改訂7版 2020年03月26日

# もくじ

---

◆ はじめに	— — — (03)
◆ 安全にお使いいただくために	— — — (04)
◆ 始業点検	— — — (05)
◆ エンジン始動手順	— — — (06)
◆ 車両始動手順	— — — (07)
◆ 車両制動・エンジン停止手順	— — — (08)
◆ ブレーキ装置解説	— — — (09)
◆ 構成部品と注意事項	
◇ 車両全景	— — — (11)
◇ 運転席ハンドル周辺	— — — (12)
◇ コントロールボックス／電源	— — — (13)
◇ 自動ロックブレーキ／車輪	— — — (14)
◇ 制動ブレーキ（液圧式）	— — — (15)
◇ ドライブチェーン	— — — (16)
◇ 照明機器	— — — (17)
◆ 車両諸元	— — — (18)
◆ 保証について	— — — (19)
◆ 廃棄物処理について	— — — (20)
◆ 各種取扱説明書・カタログ	
◇ 点検整備記録簿	
◇ 汎用エンジン	
◇ 前後進切替ミッション	
◇ バッテリー	
◇ スピードメーター	
◇ ディスクブレーキ	

## <改訂履歴>

改訂6版	P11	銘板シール貼付位置の明示
	P14	車輪素材追加のため、締付トルク値追加
改訂7版	P06	エンジン始動手順変更（セルモーター始動から手動に変更）
		バッテリーカバー、コントロールボックス仕様変更
		制動ブレーキ仕様変更

# はじめに

本取扱説明書にはお買い上げいただいた製品の正しい取扱い方法と点検について説明してあります。安全にお使い頂くためにご使用前には本書を良くお読み下さい。

## 安全に関する表示

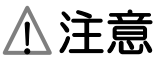
本書では使用に際し傷害を負ったりする可能性のある事項を下記の表示にてその危険性や回避方法を説明しています。これらは安全上特に重要な事項ですので必ずお読みいただき指示に従って下さい。



指示に従わない場合、死亡または重大な傷害に至る事項



指示に従わない場合、死亡または重大な傷害に至る可能性がある事項



指示に従わない場合、傷害に至る可能性がある事項

## その他の表示

本書では使用に際する正しい操作方法や点検・整備のポイントを下記の表示を用いて説明しています。



締付けトルク管理



寸法管理

## 警告／注意ラベル

安全にご使用いただくために製品には警告／注意ラベルが貼ってあります。

ラベルの内容をすべて読んでからご使用下さい。

ラベルはハッキリ見えるようにきれいな状態を維持して下さい。

ラベルが汚れ、破れなどで読めなくなった時は新しいシールに貼り替えて下さい。

## 反射ラベル

安全にご使用いただくために製品には反射ラベルが貼ってあります。

ラベルはハッキリと反射するようにきれいな状態を維持して下さい。

ラベルが汚れ、破れなどで読めなくなった時は新しいシールに貼り替えて下さい。

# 安全にお使いいただくために

あなたと周囲の人の安全を守るために以下の指示は必ず守って下さい。

## 警告

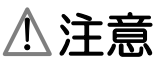
- 本製品は各鉄道会社、及び自治体の規則に基づき使用許可を得た上で、列車の運行に支障をきたさぬように正しく、安全にご使用下さい。
- 本製品をご使用する前に本取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取扱い方法を十分にご理解した上でお使い下さい。
- 本取扱説明書はすぐに取り出せる場所に保管し、大切にご利用下さい。
- 本製品の使用に際し免許等の法的要求事項はありませんが、使用者は正しい取扱い方法・安全管理を厳守して下さい。
- 本製品を長く安全にお使いいただくために、始業前点検、及び半年・年次の定期点検を必ず実施して下さい。
- 本製品の使用に際し、カバー等の部品の取り外しや弊社が認めない改造は絶対に行わないで下さい。不適切なご使用、不当な改造による故障・事故に関して弊社では一切の責任を負いかねます。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死亡事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行って下さい。
- 燃料タンクの付近で火気を使用しないで下さい。
- 室内、車内、倉庫、トンネル内など換気の悪い場所では有害な一酸化炭素がたまりガス中毒を引き起こす恐れがあります。十分にご注意下さい。

# 始業点検



**危険**

車両故障・事故防止のために乗車前に必ず行って下さい



**注意**

部品の早期損傷を防ぐために必ず行って下さい

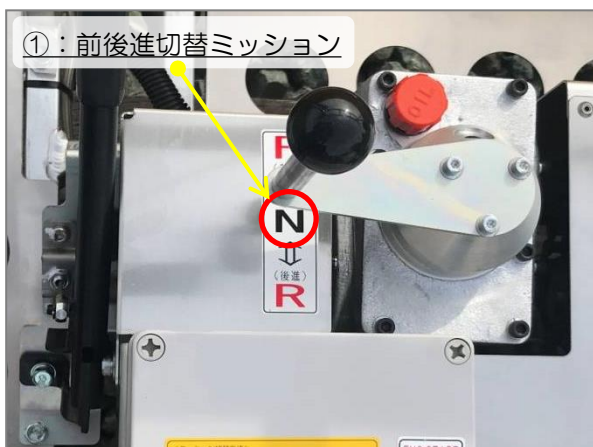
No	点検項目	点検内容
1	車輪	車輪に変形、破損が無く、車輪がスムーズに回転すること
		車輪踏面の摩耗溝が【1.0mm】以上残っていること
2	車軸	車軸に変形、亀裂、破損が無きこと
		車軸を支持する軸受が確実に締結されていること
3	メインフレーム	メインフレームに変形、破損無きこと
		各取付部品が確実に締結されていること
4	制動ブレーキ (液圧式)	ブレーキハンドルを握りブレーキディスクがスムーズに作動すること
		液圧ブレーキ機器、及び配管に油漏れなきこと
		ブレーキマスタシリンダーの油量が適量であること
		ブレーキパッドの有効厚が【2.0mm】以上残っていること
5	自動ロック ブレーキ	運転席を離席した時ブレーキが作動し車両が停止していること
		ブレーキを解除した時、車両がスムーズに動き異音無きこと
		ブレーキパッドの有効厚が【2.0mm】以上残っていること
6	留置ブレーキ	ブレーキレバーを引いた時、車両が停止していること
7	前後進切替 ミッション	前進・中立・後進の切替がスムーズに動作し、異音無きこと
		ミッションオイルの容量が適量であること
8	動力伝達部	ドライブチェーン、テンショナーに緩み、破損が無く、異音無きこと
		ドライブチェーンに潤滑油が適量塗布されていること
9	コントロール ボックス	エンジンスタート、アクセサリースイッチ正常に作動すること
		照明機器のスイッチが正常に作動すること
10	エンジン	エンジン始動がスムーズで異音無きこと
		コントロールボックスのスイッチでエンジンが停止すること
		エンジンオイル、ガソリンの容量が適量であること
11	周辺機器 その他	照明機器、警告ブザーが点灯・点滅すること
		スピードメーターが正常に作動すること
		手歯止めが確実に取り付けられていること
		ワイパーが正常に作動すること、フロントウインドウに破損無きこと
		転車装置が正常に作動し、しっかりと固定されていること

# エンジン始動手順

- ① 前後進切替ミッションを【ニュートラル】に切替えます。
- ② 燃料コックレバーを開きガソリンを供給をします。
- ③ 寒い時やエンジンのかかりが悪い時はチョークレバーを引きます。
- ④ メインスイッチ、および主電源スイッチを【ON】します。
- ⑤ 手動グリップを引きエンジンを開始します。
- ⑥ 3分程度の暖気運転を行います。
- ⑦ チョークレバーを引いた時は元へ戻して下さい。

※ エンジン始動の際は必ず留置ブレーキをかけた状態にして下さい。

※ エンジンの取扱い詳細は、別途、『汎用エンジン取扱説明書』をご参考下さい。



- ✓ セルモーターにてエンジン始動する際、メインスイッチを回してもエンジンが始動しない時はバッテリーの容量が不足している可能性があります。始動グリップを引き手動でエンジンを始動して下さい。
- ✓ 主電源スイッチが切れていると、照明機器が灯火せず、充電機能も働きませんので度注意下さい。



**警告**

エンジン始動中は回転軸、伝達部、車輪等に触れないで下さい

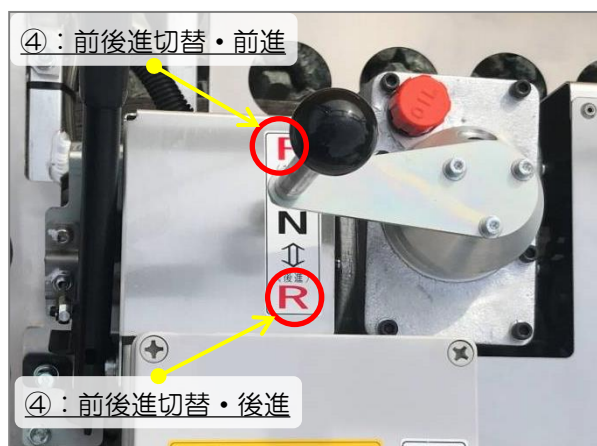


**警告**

マフラー周辺は高温になり火傷の恐れがあります

# 車両始動手順

- ① エンジンを始動したら手歯止を外し車両に収納します。
- ② 運転席に座り自動ロックブレーキを解除します。
- ③ 制動ブレーキレバーを握って制動ブレーキを効かせ留置ブレーキを解除します。
- ④ 前後進切替ミッションを進行方向に切替えます。
- ⑤ 制動ブレーキを解除しながらアクセルグリップを開き車両を始動します。



**⚠ 危険**

走行中は絶対に座席（運転席は絶対）から立ち上がらないで下さい

**⚠ 危険**

最高速度：25 km/h（雨天時：15km/h）を厳守して下さい

**⚠ 危険**

乗車定員を超過しての乗車・走行しないで下さい

**⚠ 危険**

前後進の切替は必ず一旦停止をしてから行って下さい

# 車両制動・エンジン停止手順

- ① アクセルグリップを戻し制動ブレーキを効かせ停止します。
- ② 車両が完全に停止したら前後進切替ミッションを【ニュートラル】にします。
- ③ 留置ブレーキレバーを引いて留置ブレーキを有効にします。
- ④ メインスイッチを【OFF】に切替えてエンジンを切ります。
- ⑤ 運転席から離席し、自動ロックブレーキが有効であることを確認します。
- ⑥ 手歯止を設置し、車両の逸走を防止します。

※ 車両を長期使用しない場合は、ガソリンの劣化・キャブの詰り対策としてエンジンをかけたまま燃料コックレバーを閉じてガソリンの供給を停止し、主電源スイッチを【OFF】し、燃料ろ過カップ内の残量分を使い切ってください。エンジンは3分程度で自動で停止します。

※ エンジン停止後はメインスイッチを必ず【OFF】に切替えて下さい。バッテリーが自然放電する恐れがあります。



**危険**

本車両の制動距離は10 m以下です  
(弊社テストコース、乾燥時、定員乗車、時速 20km/h走行時)



**危険**

線路上が濡れている場合、制動距離が長くなるのでポンピング  
ブレーキを活用し早めに減速して下さい



# ブレーキ装置解説

---

弊社のレールスクーターは、乗員の安全・安心のために下記のブレーキ装置4点を標準装備しています。

## <留置ブレーキ（サイドブレーキ）>

- 留置ブレーキとは、車両をその場に停車しておくためのブレーキを指します。
- 留置ブレーキは機械式のディスクブレーキを後輪左側車軸に搭載し、運転席右下のレバーを引くとワイヤにてディスクブレーキを作動し、ブレーキパッドを介してディスクを挟み込む構造となっています。
- ブレーキトルクは【20[N・m]～】で設定しており、勾配【35/1,000】の条件下でも車両が逸走することはありません。

## <制動ブレーキ>

- 制動ブレーキとは、走行している車両を減速させて停止するためのブレーキを指します。
- 制動ブレーキは液圧式のディスクブレーキを後輪左側車軸に搭載し、運転席ハンドルの左手ブレーキレバーを握るとディスクブレーキのピストンが押し出され、ブレーキパッドを介してディスクを挟み込む構造となっています。
- ブレーキトルクは【40[N・m]～】で設定しており、速度【20km/h】勾配【35/1,000】の下り坂で【15m以内】で停止できます。

## <自動ロックブレーキ>

- 自動ロックブレーキとは、運転者が車両から離席した時に車両の逸走を防止するためのブレーキを指します。
- 自動ロックブレーキは機械式のドラムブレーキを前輪左側車軸に搭載し、運転席の座席下からリンク機構にて作動する仕組みで、運転者が離席するとスプリング力にて自動的にブレーキシューを押し当てる構造となっています。
- ブレーキトルクは【20[N・m]～】で設定しており、勾配【35/1,000】の条件下でも車両が逸走することはありません。

## <手歯止め>

- 手歯止めは、車両から離れる際、車輪を固定するためのパーツです。
- ナイロン製樹脂で車輪を挟み込み、車輪が回転して、逸走するのを防止します。
- 手歯止めは赤色蛍光塗装を施してあり、夜間でも発光して目立つので、置き忘れを防止効果もあります。

# ブレーキ装置解説

## <牽引トロ用制動ブレーキ> (オプション)

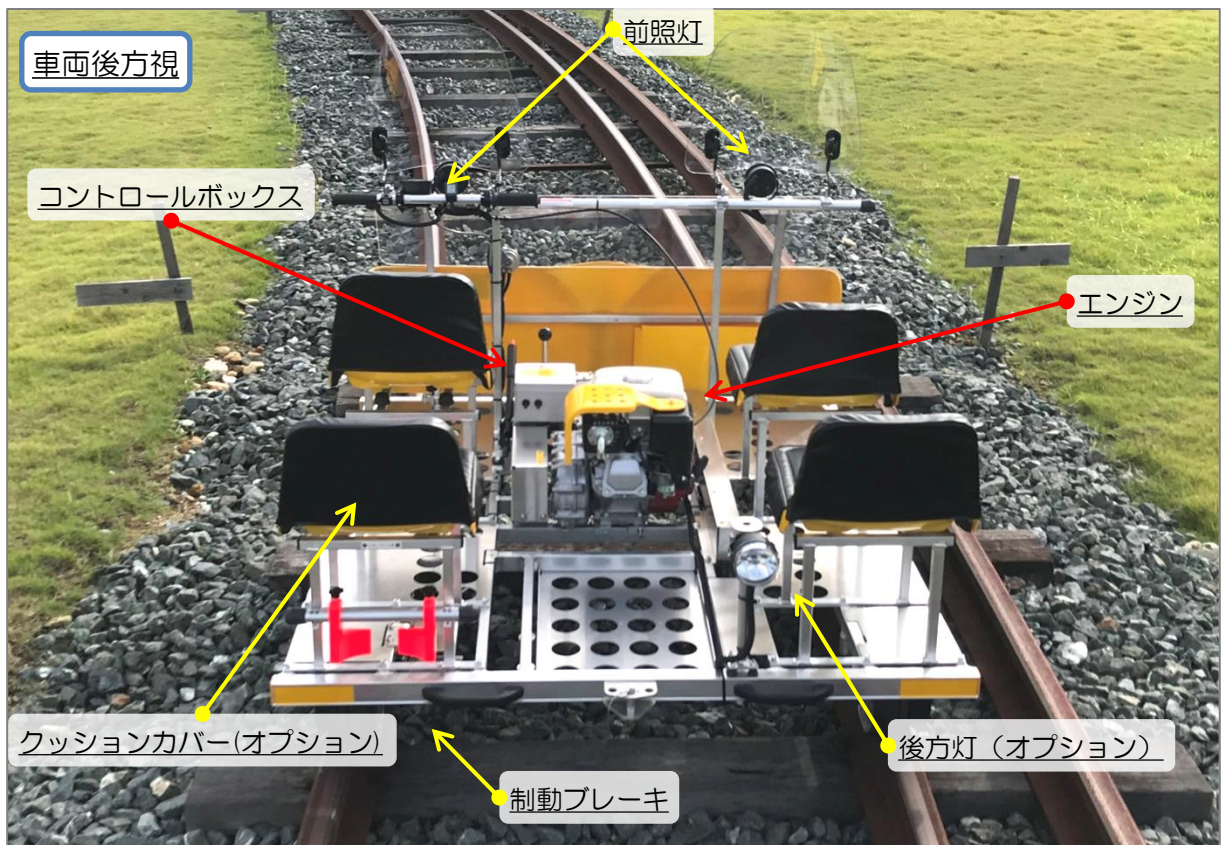
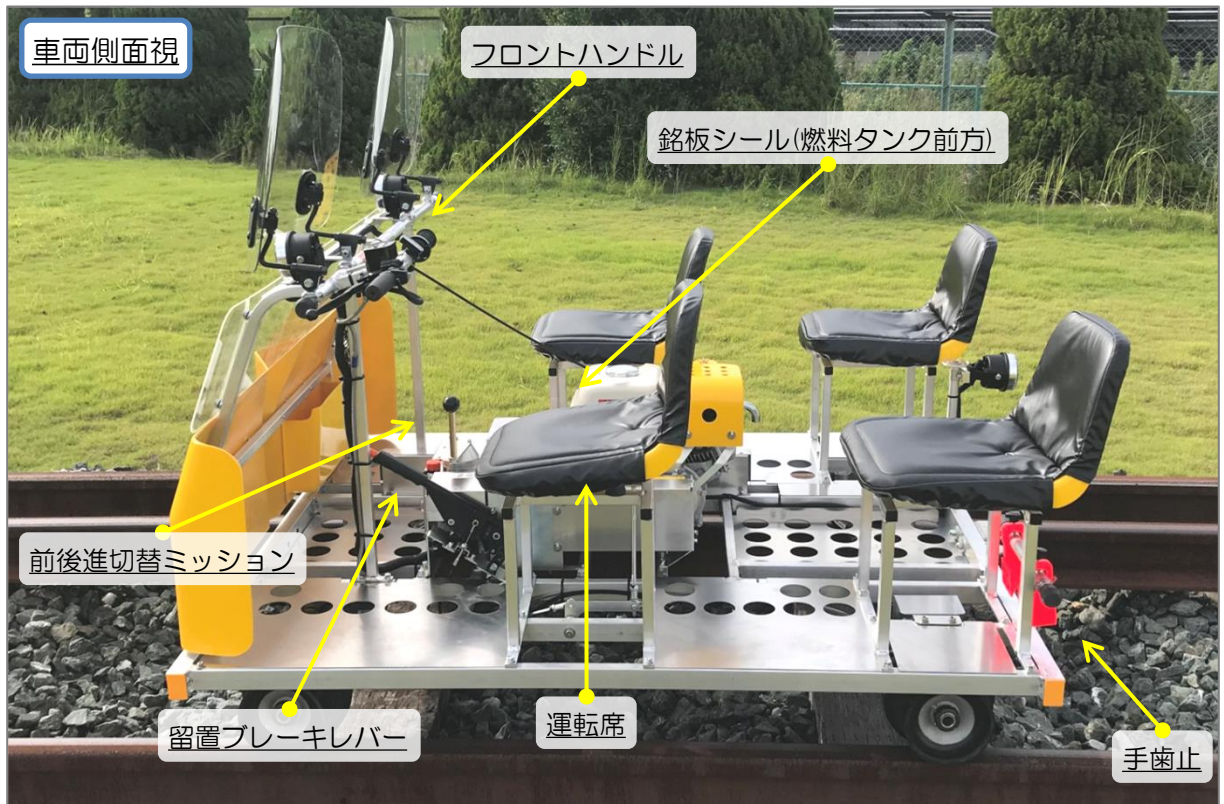
- 牽引トロ用制動ブレーキとは、レールスクーターで牽引する軽量アルミトロを制動させるためのブレーキを指します。
- 牽引トロ用制動ブレーキは機械式のディスクブレーキを軽量アルミトロの前輪左側車軸に搭載し、レールスクーター運転席ハンドルの右手ブレーキレバーを握るとワイヤにてディスクブレーキを作動し、ブレーキパッドを介してディスクを挟み込む構造となっています。
- ブレーキトルクは【20[N・m]~】で設定しており、牽引トロ単独の制動ブレーキとしては牽引車（レールスクーター）への追突を緩和する程度の制動力ですが、レールスクーターの制動ブレーキと合わせ、速度【20km/h】勾配【35/1,000】の下り坂で【20m以内】で停止できます。

## <注意事項>

- 弊社レールスクーターのエンジンは遠心クラッチ仕様であり、アイドルリング状態で車両が自走することはありませんが、車両から離席する際はエンジンを停止して下さい。
- 車両を移動する時は、運転席を下方に押し、自動ロックブレーキを解除しながら移動して下さい。自動ロックブレーキを解除せずに無理に車両を押すと適切なブレーキトルクを損なう恐れがあります。
- 本車両の留置ブレーキ、および自動ロックブレーキはあくまで車両単体に対して機能を満足するものであり、牽引時の被牽引車両まで含めたブレーキ機能を満足するものではありません。被牽引車両を使用の際は、被牽引車両に装備された自動ロックブレーキ、手歯止めを併用してご使用下さい。
- 制動ブレーキは早めに、ポンピングブレーキを活用し、急ブレーキによる制動はできるだけ避けて下さい。
  - ◇ 推奨最高速度：25km/h（晴天時）、15km/h（雨天時）
- 本項で示す数値は、下記条件下での机上計算値（一部実測値）となります。天候や車輪、レールの表面状態等で数値はばらつくことがあります。
  - ◇ 社内テスト = 晴天時、車輪新品、社内テストコース
  - ◇ 摩擦係数 = 社内テストコース実測値から推定
  - ◇ 制動力 = 社内テストコース実測値（計算値との近似を確認）
  - ◇ ブレーキレバー入力値 = 二輪車認定基準値

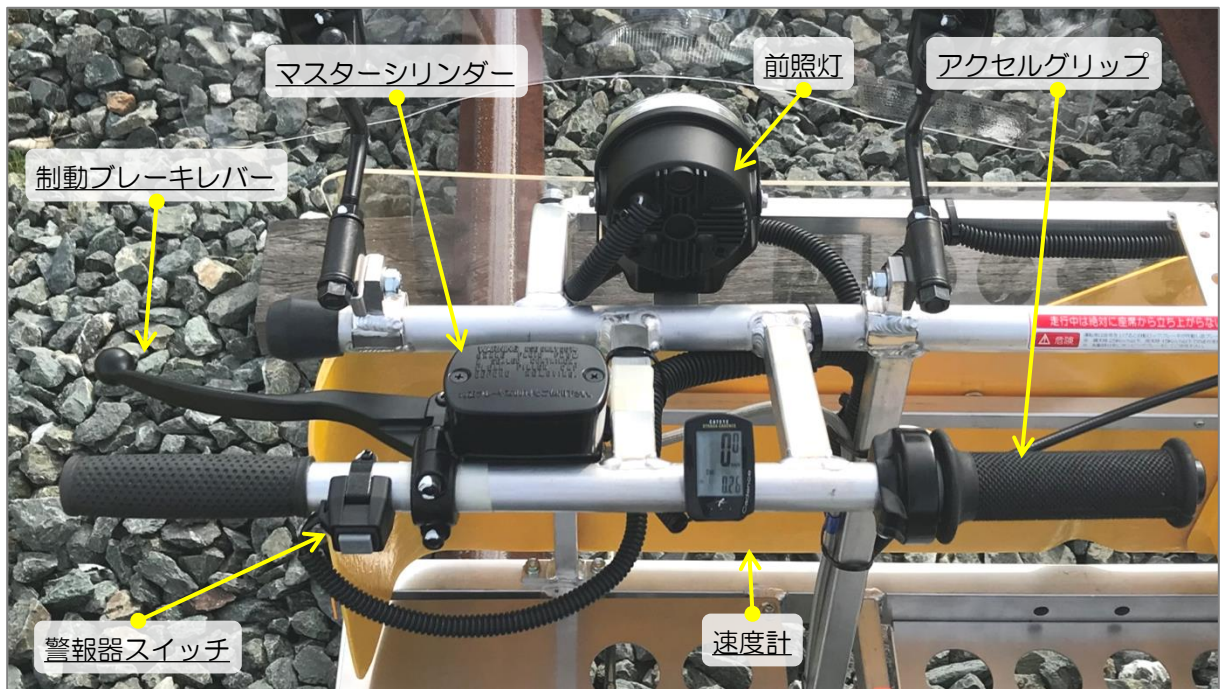
# 構成部品と注意事項

## ＜車両全景＞



# 構成部品と注意事項

## <運転席ハンドル周辺>



本車両の操作は運転席から行って下さい。  
助手席、後席からの操作は危険ですので絶対にしないで下さい。

### <制動ブレーキ>

- 制動ブレーキは液圧式ディスクブレーキです。
- 使用前にブレーキレバーの握り代、ブレーキディスクの作動をご確認下さい。
- ブレーキ液は指定のものをご使用下さい。

### <アクセルグリップ>

- アクセルグリップはグリップの回転でエンジンの回転数を調整します。
- 使用前に手を離すと自動的に元に戻ることをご確認下さい。

### <速度計>

- 速度計は前輪軸の回転数と車輪径を乗じて速度を算出します。
- 速度はある時間の平均値から算出するため速度変化が急激な場合は反応しません。
- 速度計は電池式です。ボタンを押しても表示されない時は電池を交換して下さい。
- 速度計の詳細は、別途、取扱説明書をご参考下さい。

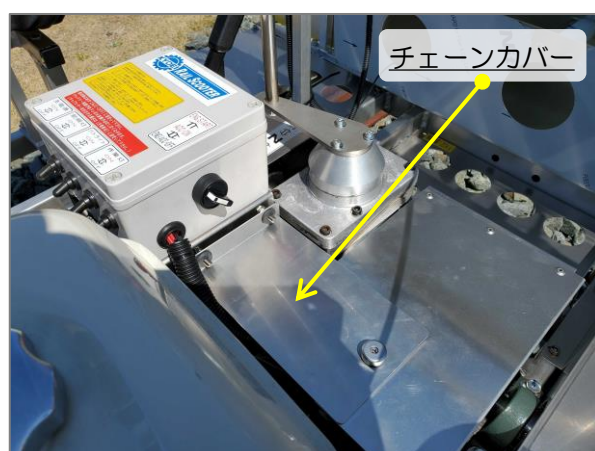
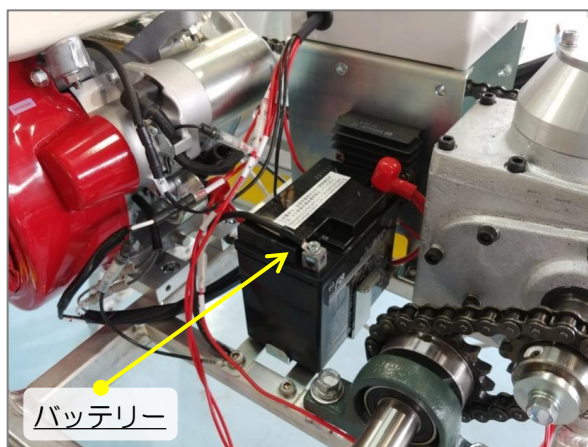
### <警報器>

- 警報器はスイッチを押すと発音し離すと止まります。
- 発音確認する場合はメインスイッチを【ACC-ON】に切替えて下さい。
- 確認後はメインスイッチを【OFF】に戻して下さい。

# 構成部品と注意事項

## <コントロールボックス／電源>

- 照明機器等はメインスイッチ、および主電源が【ON】の時に使用できます。
- バッテリーの自然放電抑制のためにも、使用後はスイッチを必ず切って下さい。
- 照明機器、およびセルモーターの電源は付属のバッテリーより供給されます。
- バッテリーの充電は、エンジンに内蔵された発電機器より供給され、発電容量はエンジンの回転数に依存します。アイドリング時は十分な発電量を確保することができませんのでご注意ください。
- 万が一、バッテリーの残量が低下し照明機器が使用できない場合は、二輪車用12Vバッテリー充電器を使用して充電するか、バッテリーを交換して下さい。急速充電を行う場合はバッテリー取扱説明書の要項表の条件に従って下さい。使用状況により異なりますが、自然放電も含め、バッテリーの寿命は1年程度です。



- コントロールボックスの照明機器スイッチの数量、並びは仕様により異なります。
- バッテリーは前後進切替ミッション横のカバーを外した内側に設置してあります。
- バッテリーの充電、交換時は取り扱いに十分注意下さい。

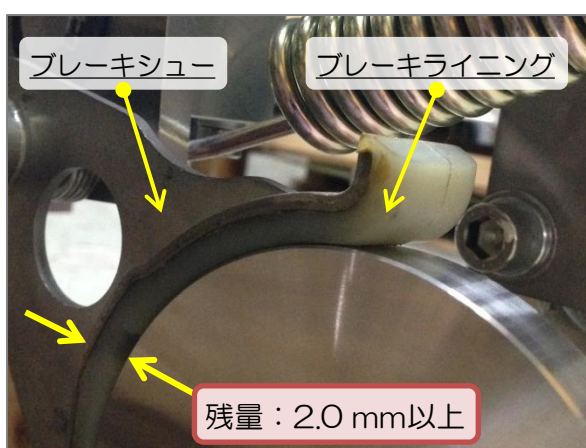


コントロールボックスの改造は絶対に行わないで下さい

# 構成部品と注意事項

## <自動ロックブレーキ／車輪>

- 自動ロックブレーキは運転席を離席した時にブレーキシューがブレーキローターに圧接され車輪がロックしブレーキが有効な状態となります。
- 車両が逸走しない、手で押しても動かない状態を確認して下さい。
- 自動ロックブレーキは運転席に着席すると解除されます。運転席を下方に押しブレーキが解除され、車両がスムーズに動くことを確認して下さい。
- 車輪を固定しているナットを締めつけるには専用ソケットが必要となります。
- 車輪ロックナットと車輪の間には必ずワッシャを挟んで下さい。



自動ロックブレーキ設定トルク：20 N・m 以上

制動ブレーキ設定トルク：40 N・m 以上

車輪ロックナット：<ゴム車輪>90 N・m (内側) / 76 N・m (外側)

<ナイロン車輪>76 N・m (内側) / 76 N・m (外側)



車輪溝深さ：1.0 mm 以上ブレーキライニング残量：2.0 mm 以上



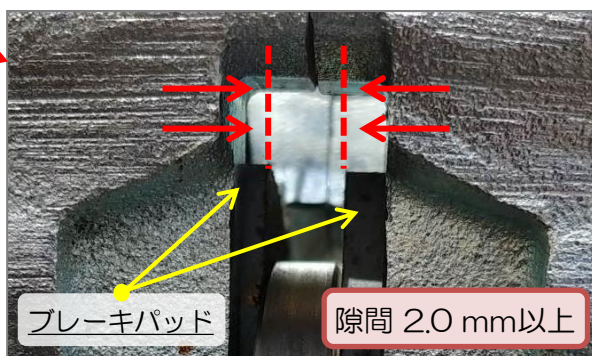
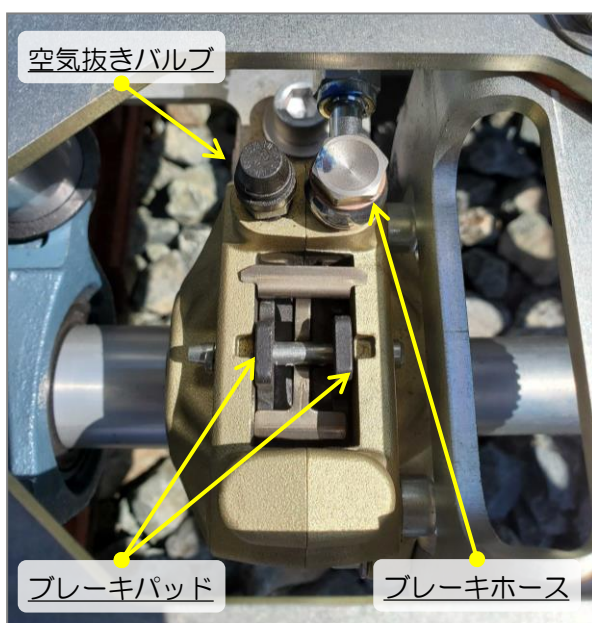
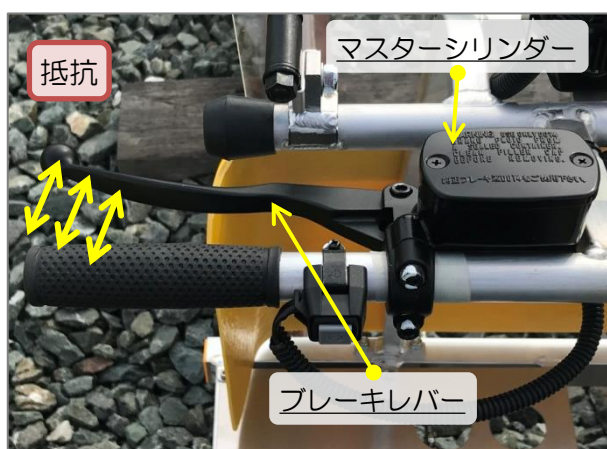
**警告**

車輪溝深さが 1.0 mm 以下になったら車輪を交換して下さい

# 構成部品と注意事項

## <制動ブレーキ（液圧式）>

- 制動ブレーキはブレーキレバーを握ると有効となり、手を離すと解除されます。
- ブレーキレバーを握った状態で車両が動かないことを確認して下さい。
- ブレーキレバーを握った時に液圧反力による抵抗があることを確認して下さい。
- フルブレーキ時にレバーがグリップに干渉しないことを確認して下さい。
- マスターシリンダ、ディスクブレーキ、配管に傷や液漏れがないこと。
- マスターシリンダのブレーキ液が適量であること。
- ブレーキ液は【DOT4/JIS4種】を使用して下さい。



制動ブレーキレバーはフルブレーキ時にグリップからの幅を**10mm**以上に設定して下さい。ブレーキレバーとグリップが底付きすると危険です。



向い合うブレーキパッドの隙間が**2.0mm**以下になったらブレーキパッドを交換して下さい。

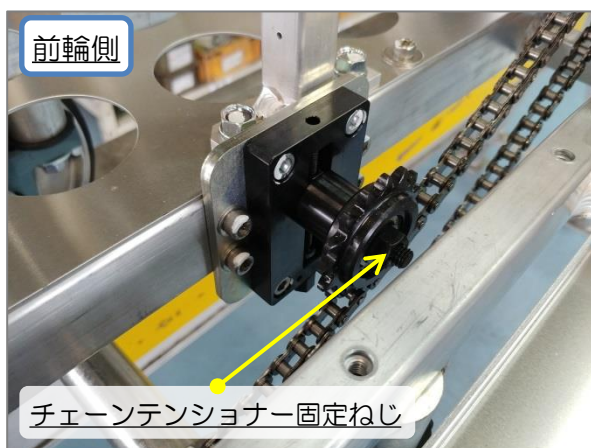


制動ブレーキを有効にするために必要な寸法を常に確保すること  
液圧ブレーキ機器に液漏れなきこと

# 構成部品と注意事項

## <ドライブチェーン>

- 本製品には【RS35/RS40】の2種類のドライブチェーンを使用しています。
- ドライブチェーンは使用状況により伸びて、たるみが大きくなります。チェーンテンショナーの位置を調整し適切なたわみ量に維持して下さい。
- 始業前点検時にドライブチェーン全体に潤滑油を塗布して下さい。
- ドライブチェーンの張り具合を調整する際は、チェーンテンショナー固定ねじを緩め、調整ねじを回して張り具合を調整して下さい。調整後は必ずチェーンテンショナー固定ねじを締めて下さい。
- ドライブチェーンの取扱い詳細は、別途、添付資料をご参考下さい。



## <ギア比構成表>

小径車輪	種類	標準仕様	牽引仕様
インプット軸×ミッド軸	RS40	16T×20T	16T×20T
ミッド軸×リダクション軸	RS40	13T×13T	13T×18T
リダクション軸×車軸	RS35	18T×30T	18T×30T
最終ギア比		2.08	2.88

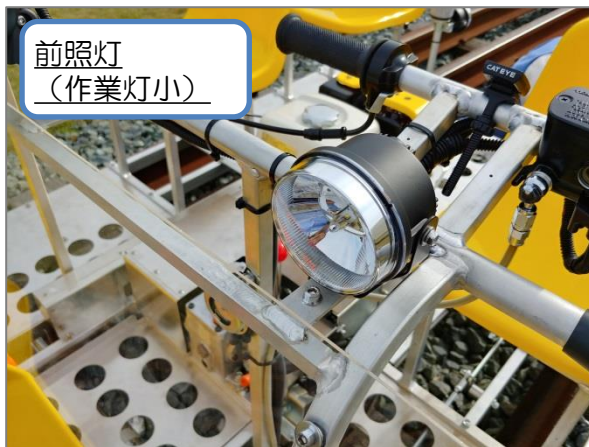
大径車輪	種類	標準仕様	牽引仕様
インプット軸×ミッド軸	RS40	16T×20T	16T×20T
ミッド軸×リダクション軸	RS40	13T×13T	13T×18T
リダクション軸×車軸	RS35	15T×30T	15T×30T
最終ギア比		2.50	3.46



# 構成部品と注意事項

## <照明機器>

- 本製品には前照灯2灯が標準で搭載されています。
- ハンドル中央部に追加できる機器は作業灯大、小、パトライトです。
- 車両後方に追加できる機器は後方灯、パトライトです。
- 本体の仕様、電力量により組合せできない機器があるのでご注意ください。



- 前照灯、後方灯、作業灯小は取付位置が異なるだけで同じ照明機器となります。

# 車両諸元

型式		RC-RZ2	RC-RZ4	RC-RS2	RC-RS4
定格乗員		2名	4名	2名	4名
軌間 (mm)		1,067		1,435	
外形寸法	全長 (mm)	1,210	1,630	1,210	1,630
	全幅 (mm)	1365	1365	1,620	1,620
	全高 (mm)	950	950	975	975
車両重量 (kg)		110	120	120	130
最高速度 (km/h)	平坦路	標準仕様	25	牽引仕様	20
	勾配 (35/1,000)		20		15
制動距離		10m (社内テストコース・20 (km/h)・平坦路・乾燥時)			
エンジン		汎用エンジン GX160 (本田技研工業株式会社製)			
前後進切替ミッション		MM-103 (益製作所製)			
減速比	標準仕様	エンジン軸：車軸＝ (RZ) 2.08 : 1 / (RS) 2.50 : 1			
	牽引仕様	エンジン軸：車軸＝ (RZ) 2.88 : 1 / (RS) 3.46 : 1			
駆動構造		4輪駆動、ドライブチェーン式			
車輪構造	絶縁仕様 (小径)	硬質ゴム被覆車輪 (踏面径：φ162)			
	絶縁仕様 (大径)	硬質ゴム被覆車輪 (踏面径：φ212)			
	短絡仕様 (大径)	アルミ鋳造車輪 (踏面径：φ198)			
制動ブレーキ		液圧式ブレーキハンドルXブレーキキャリパー (二輪用純正品)			
自動ロックブレーキ		機械式ブレーキシューXブレーキドラム (前輪軸)			
留置ブレーキ		機械式ディスクキャリパーXブレーキローター (後輪軸)			
バッテリー		制御弁式バッテリー ※BTZ7S (BSバッテリー) / FTZ7S (古河電池)			
前照灯・後方灯・作業灯 (小)		DS535b-DRV (12V9W) (PIAA製)			
作業灯 (大)		DK575BWG (12V19W) (PIAA製)			
パトライト		VL07R-D24NY (12V0.9W) (日恵製作所製)			
サーチライト		LEDL-24W-N (日動工業株式会社製)			
スピードメーター		自転車用サイクルコンピューター ※CC-RD200/CC-RD500W+ISC-12 (CATEYE製)			
警報器		二輪用電気ホーン (フロントハンドル左側支柱)			
最大牽引重量		標準仕様	200kg	牽引仕様	500kg
その他	屋根付	フロントワイパー付			
	転車付	手動パンタジャッキ式 (線路支持)			
	エンジン着脱	エンジンを中心とした周辺部品を着脱 (30kg程度)			
	牽引トロブレーキ	被牽引車両専用の制動ブレーキ/逸走防止装置			

# 保証について

---

## ＜より長くお使いいただくために＞

- 当社が推奨する点検を定期的に行ってください。

## ＜保証期間＞

- 本製品の保証期間はご購入いただいた日から1年間です。但し、ブレーキパッド、ワイヤケーブル等の消耗部品は除きます。
- 保証期間内であっても有料修理になることがありますので『保証規定』をよくお読み下さい。

## ＜修理＞

- 保証期間後の修理については販売店にご相談下さい。
- 修理によって機能が維持できる場合は有料にて修理いたします。

## ＜補修用部品の保有期間について＞

- 本製品の主要な補修用部品の保有期間は製造終了後5年間です。
- なお、補修用部品の単位は弊社が定めるパーツリストをご参照下さい。
- 消耗品の販売終了時期については別途お問合せ下さい。

## ＜保証規定＞

- 本製品の保証期間内に正常なご使用状態で、万が一故障した場合は無償で修理させていただきます。
- 保証期間内でも次の場合は有償にて修理させていただきます。
  - ①. 使用上の誤りおよび当社以外の者による改造、修理に起因する故障、損傷
  - ②. 輸送、移動時の落下等、お取扱いが適当でないために生じた故障、損傷
  - ③. 火災、塩害および地震、雷、風水害その他天災地変等による故障、損傷
  - ④. 当社が定める製品以外を連結、接続したことが起因となる故障、損傷
  - ⑤. 取扱説明書記載方法および注意に反するお取扱いによって生じた故障、損傷
- 本製品に生じた故障に関し、当社は本保証に基づく無償修理以外の責任を負いません。
- 本保証は国内で使用される場合のみ有効です。

# 廃棄物処理について

- 本製品を廃棄するときには以下に示す法律の適用を受け、それぞれの法規ごとの配慮が必要となります。また、以下の法律については日本国内において効力を有するもので、日本国外（海外）においては現地の法律が優先されます

## <資源有効利用促進法における必要事項>

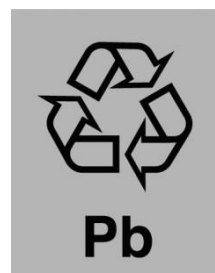
- ① 不要となった本製品は、できる限り再生資源化をお願いします。
- ② 再生資源化では、鉄鋼材料、アルミ材料、樹脂部品、電気部品などに分割し、各々適正な業者に処理依頼することを推奨します。

## <廃棄物処理清掃法における必要事項>

- 不要となった本製品は前項の再生資源化等を行い、廃棄物の減量に努められることを推奨します。
- 不要となった本製品が再生資源化できずこれを廃棄する場合は、同法の産業廃棄物に該当します。産業廃棄物は、同法の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託し、マニフェスト管理など含め、適正な処置をする必要があります。
- 電池は、いわゆる「一次電池」に該当しますので、自治体で定められた廃棄方法に従って廃棄ください。
- 本製品で使用していたエンジンオイル等を廃棄する場合についても産業廃棄物の扱いを受けますので、適正な処置をお願いします。
- その他ご不明な点がございましたら当社へお問合せ下さい。

## <バッテリーのリサイクルについて>

- 本製品には、二輪自動車用制御弁式バッテリー（鉛バッテリー）を使用しています。鉛は埋蔵量の少ない高価な希少資源ですが、リサイクルして再利用が可能です。ご使用済の際は捨てずにリサイクルにご協力下さい。



記載事項はお断りなく変更することがありますが予めご了承下さい

<製造元>

株式会社 協栄製作所

<販売元>

〒435-0026

静岡県浜松市南区米津町1060

株式会社 協栄エンジニアリング

(TEL) 053-533-8023

(FAX) 053-533-8033

(URL) <http://www.kyoei-seisaku.co.jp>



本紙は『エコ商品ネット』に掲載されている商品を使用しています